

2024年4月

追悼 福島孝徳先生

去る3月19日、デューク大学顧問教授福島孝徳先生が、米国でお亡くなりになりました。世界的にご活躍された先生の訃報は、世界中の脳神経外科医に伝わり、その知らせにそれぞれが深い思いを馳せています。私もその一人です。

福島先生との関りは、私が脳神経外科専門医になって間もなくの32歳（1988年）からです。当時は、救急病院の脳神経外科部長としての責務で診療にあたっていました。その際に、顔面痙攣の手術を福島先生の執筆された論文を元に行いましたが、とても時間がかかり、苦労したため、直接教えを頂くために、当時若手脳外科医 No.1と言われていた三井記念病院の福島先生を訪ねました。そして、それまで教えられた技術を根本から見直すこととなり、改めて脳神経外科医としてスタートしました。

森の木は1992年3月31日に開院しましたが、同時に先生は米国南カリフォルニア大学へ転任されました。1993年1月にスウェーデンカロリンスカ大学のチート・マチーセン先生を連れて森の木にやって来られました。以来様々な国々の脳神経外科医を伴って定期的に来院されることとなり、多くの難手術を共に行ないました。その中には、現在全米脳神経外科学会会長のアン・ストロインク先生など、当時の世界中の若手ホープ達もいて、福島親衛隊と称していました。職員や幼かった子供達もかわいがって頂き、手術後はバーベキューや音楽会などをみんなで楽しみました。先生がハワイで主催された学会には職員も多数参加して、貴重な経験をさせて頂きました。当時の森の木は、長崎で最も国際色豊かだったと思います。

手術の助手を務めていた時に、「古賀君とのコンビは世界一だね」と言って頂き、私の実家にお招きした時には、「君のような人は、僕の周りにはいなかった。一体どう育ってきたの、勉強部屋を見せてくれ」と言われました。また、まだ誰からも認めてもらえず、孤軍奮闘している時には、「僕もアメリカで日の丸を背負って一人で戦っているの、頑張れ」と励まして下さいました。そんな数々の思い出がいっぱいの日々は、森の木の青春時代でした。

2003年にテレビ番組の情熱大陸が当院でも収録され、先生は一般に広く知られることとなりました。マスコミから「神の手」などと称されていましたが、ご本人はつぶやくように、

「神の手なんか有るはずがない、努力だ」と言われていました。しかし周りがそっとしておかず、次々とマスコミに登場され、それに伴って超多忙になられました。2006年に当院に3TMRIを導入したところで、「古賀君はもう十分な技術になっているので、一人で大丈夫」と卒業証明を頂き、それぞれの道を歩むこととなり、同時に森の木の青春も終わりを告げました。

先生の純粹なご遺志は世界中の脳神経外科医に永遠に引き継がれることとなるでしょう。

森の木も先生のお言葉を大きな礎にして歩み続けます。

どうぞ安らかに眠り下さい。

